管　内　情　勢

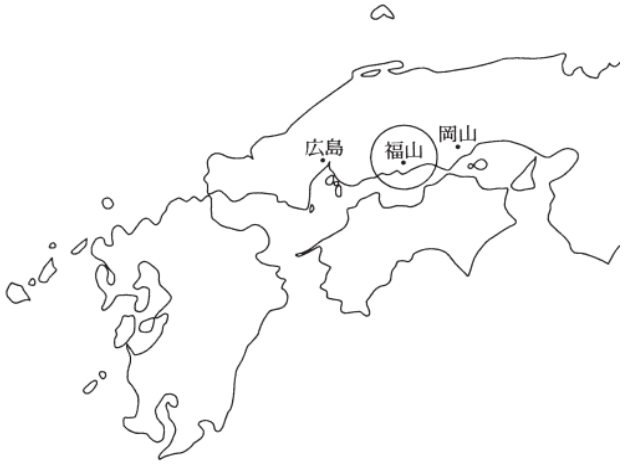
１．福山地区消防組合の管内状況

2026年(令和8年)4月1日現在

位置	東端（福山市走島町宇治島）	東経	133°	28′	15″
	西端（府中市上下町）	東経	133°	5′	0″
	南端（福山市走島町宇治島）	北緯	34°	18′	34″
	北端（神石郡神石高原町）	北緯	34°	51′	42″

面積	1,095.45k㎡

距離	東西	35.2km
	南北	61.3km



福山地区消防組合管内



２．福山地区消防組合の概況

位　置

福山地区消防組合は広島県の東南端、東経１３３度２８分から１３３度５分、北緯３４度１８分から３４度５１分にあって、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部に位置し、岡山県と境界を接し、南は燧灘を隔て愛媛県に対している。

地　勢

当消防組合は東西約３５km、南北は約６１kmに渡り、面積は１，０９５．４５k㎡で、山系は北部に８００mを超える大行山、京山及び星居山が連なり、中央部には５００m級の金毘羅山、蛇円山及び馬乗山が、南部には４００m級の彦山及び熊ケ峰が連なっている。

河川は南部に、瀬戸内水系で芦田川が瀬戸内海に注ぎ、河口に福山平野を発展させ市街地の中心部を形成している。つづいて沼隈半島の先端にある鞆の浦は、瀬戸内海国立公園を代表する景勝地で、さらに南方海上には走島及び宇治島や内海大橋で結ばれた田島及び横島等、瀬戸内の島々が散在している。

また、北部には、日本海水系で江の川流域に属する領家川、瀬戸内水系で高梁川流域に属する成羽川、帝釈川等があり、帝釈川一帯は国定公園帝釈峡として、四季折々の彩りを見せている。

気　候

当消防組合の気候は、南部は温暖で雨量が少なく晴天の多い瀬戸内式気候で、年間の平均気温は１５．７℃、降雨量は１，１７１．７mmとなっている。北部は海抜５００mを超える高地で、年間の平均気温は１１．３℃、降雨量は１，３６５．９mmで、山間地帯特有の気象状態を呈している。

3. 福山地区消防組合の沿革

1927年（昭和2年）	1月18日	福山警察署轄の常備消防部を新設、小頭以下16人、自動車ポンプ1台で業務開始
1932年（昭和7年）	8月29日	安部和助氏寄贈で望楼付消防屯所（木造モルタル3階建　延べ60坪）を新設
	12月26日	自動車ポンプ1台を購入
1936年（昭和11年）		常備消防部員2人屯所詰めとなる。
1937年（昭和12年）	9月	自動車ポンプ30馬力1台購入、自動車ポンプ3台、手挽ガソリンポンプ2台、腕用ポンプ23台となる。
1938年（昭和13年）	6月	火災専用電話を開設
1943年（昭和18年）		中高層建物の火災に備え、ポンプ車を改造し長さ60尺（18m）のはしごを取り付ける。
1944年（昭和19年）	2月 8日	常備消防屯所を新築移転すると共に職員47人に増員
1945年（昭和20年）	8月 8日	焼い弾爆撃によって福山市は壊滅状態となる。
	12月 1日	8月8日に消失した消防屯所を仮建築する。
		＊＊＊＊＊　自治体消防発足　＊＊＊＊＊
1948年（昭和23年）	3月 7日	消防組織法の施行により県（警察）から分離独立し、自治体消防として福山市消防署が発足、職員37人、消防ポンプ自動車4台で業務開始
	5月30日	福山市消防本部を設置
	7月 8日	広島県からジープ改造消防車の配分を受ける。
	10月 1日	福山市防火協会を設立
	10月 8日	福山市危険物取扱条例を制定
	10月29日	福山市火気取締及び消防設備等に関する条例を制定
1950年（昭和25年）	10月25日	福山市消防本部に関する条例を制定 （機構　1本部　1署）
	10月26日	救急車１台を購入、県下初の救急業務を開始
1952年（昭和27年）	5月 9日	消防本部1　消防署1　定員65人　実員48人　ポンプ自動車5台 速消車2台　指揮車1台　救急車1台　輸送車1台となる。
1953年（昭和28年）	3月10日	福山市火災予防条例を制定 福山市危険物保安条例を制定
1955年（昭和30年）	3月16日	中短波無線電話機2基を購入し、運用を開始
1956年（昭和31年）	10月15日	防火協会誌「消防だより」を創刊する。
1957年（昭和32年）	3月11日	松永市・沼隈町と「消防相互応援協定」を締結
	3月12日	神辺町・駅家町・加茂町と「消防相互応援協定」を締結
	12月28日	消防ポンプ自動車1台を購入
1958年（昭和33年）	2月17日	福山市消防署鞆出張所を新設、職員8人、消防ポンプ自動車1台で業務開始 （機構　1本部　1署　1出張所）
1959年（昭和34年）	1月17日	消防本部の係を課制に改め、総務課・予防課・警備課とする。
1960年（昭和35年）	2月 2日	福山市危険物安全協会を設立
	10月 1日	南消防署及び北消防署を新設

1960年（昭和35年）	10月 1日	本部9名　南消防署42人　北消防署27人となる。
		（機構　1本部　2署　1出張所）
1961年（昭和36年）	3月11日	自治体消防発足13周年記念行事を実施、福山消防の歌を披露する。
	4月 1日	職員80人となる。
	4月16日	瀬戸婦人消防隊を結成
	10月26日	119番自動ダイヤル化
	12月12日	火災専用電話　119開通（福山電話局の交換機自動化）
1963年（昭和38年）	4月 1日	福山港が重要港湾の指定を受ける。
	12月 1日	笠岡市と「消防相互応援協定」を締結
1964年（昭和39年）	2月29日	福山市消防本部警備課を警防課に改める。
	12月15日	中高層ビル火災に備え、18m級はしご付消防ポンプ自動車1台を購入
1965年（昭和40年）	2月 1日	県下で初の化学消防車が寄贈され、北消防署へ配備
	4月 1日	職員100人となる。
	4月13日	福山市消防音楽隊設置規程を制定、隊員14人で音楽隊が誕生する。
	5月25日	防火協会に支部を設置
1966年（昭和41年）	5月 1日	福山市、松永市の合併により松永市消防署を福山市西消防署として発足、職員123人となる。
		（機構　1本部　3署　1出張所）
	10月22日	南消防署鞆出張所を鞆支所西側に新築移転
1967年（昭和42年）	1月10日	福山港が特定港に指定される。
	5月19日	尾道市と「消防相互応援協定」を締結
	10月24日	超短波無線基地局を南消防署鞆出張所に設置する。
1968年（昭和43年）	3月30日	土地区画整理事業のため西消防署を新築移転
	4月 1日	職員137人となる。
	5月16日	防火協会支部連合会を設置
	9月13日	尾道海上保安部と「消防業務協定」を締結
	10月 2日	福山海上保安署と「消防業務協定」を締結
	11月30日	自治体消防発足20周年記念行事として「暮らしを守る消防展」を開催
1969年（昭和44年）	4月 1日	福山市消防本部を福山市消防局に改める。
		局組織に係制を採用、3課6係とする。
		消防副士長制度を実施する。
		職員151人となる。
	9月 9日	消防指令台及び自動電話交換機の運用開始
	12月 1日	第1回消防競技大会を開催
1970年（昭和45年）	4月 1日	職員167人となる。
	10月 1日	府中市・協和村・芦田町・新市町と「消防相互応援協定」を締結
1971年（昭和46年）	3月27日	救助工作車１台を購入、南消防署へ配備
	3月31日	消防局庁舎（鉄骨造3階建）を竣工
	4月 1日	職員186人となる。
	6月30日	救急車をピーポーサイレンに切り替える。

1972年（昭和47年）	4月 1日	職員227人となる。
		福山市警防規程、福山市消防局文書取扱規程を制定
	11月 1日	東消防署（鉄筋コンクリート造2階建）を新設、職員28人　化学車1台　救助工作車1台　消防ポンプ自動車2台　救急車1台で業務開始
		（機構　1本部　4署　1出張所）
	12月15日	40m級はしご付消防ポンプ自動車1台を購入、東消防署へ配備
1973年（昭和48年）	4月 1日	中高層ビル火災等複雑な消防業務に備え、特別消防隊12人で発足、職員250人となる。
1974年（昭和49年）	4月 1日	局事務機構に指導課を新設し、4課7係とする。
		西日本初の女性消防官2人を採用、職員269人となる。
	9月 1日	尾道地区消防組合と「消防相互応援協定」を締結
	12月10日	2台目の化学消防車を寄贈され、東消防署へ配備
1975年（昭和50年）	4月 1日	職員281人となる。
		福山市防火協会を改編し、各消防署管轄区域ごとに4防火協会を設立
	8月11日	福山市防火協会連合会を設立
	9月19日	西消防署今津分遣所（木造モルタル平屋建）を新設
		本署から職員14人出向し、消防ポンプ自動車1台で業務開始
		（機構　1本部　4署　1出張所　1分遣所）
	10月11日	救助艇「はやて」を購入
1976年（昭和51年）	4月 6日	西消防署（鉄筋コンクリート造3階建）を新築移転
1977年（昭和52年）	1月24日	20m級屈折はしご付消防ポンプ自動車1台を購入、東消防署へ配備
	4月 1日	福山市防火連絡協議会を設立
1978年（昭和53年）	3月 9日	自治体消防発足30周年記念行事として「市民防火まつり」を開催し、「福山消防のあゆみ」を発刊する。
1979年（昭和54年）	4月21日	水上消防署を新設、職員17人で業務開始
		（機構　1本部　5署　1出張所　1分遣所）
		消防艇「雪風」を建造し、水上消防署へ配備
		消防合同庁舎（鉄筋コンクリート造3階建）を新築
1980年（昭和55年）	4月 1日	救急指令装置Ａ型・地図検索装置を導入、運用開始
	8月15日	日本鋼管株式会社福山製鉄所と「消防応援等協定」を締結
1981年（昭和56年）	5月 1日	消防指令装置完成に伴い、各署所端末機の運用を開始
1982年（昭和57年）	4月 1日	水上消防署（鉄筋コンクリート造2階建）を新築
	9月16日	救助資器材搬送車を寄贈される。
1983年（昭和58年）	4月 1日	南消防署瀬戸出張所（鉄筋コンクリート造2階建）を新設、職員13人で業務開始
		（機構　1本部　5署　2出張所　1分遣所）
1984年（昭和59年）	2月29日	化学消防ポンプ自動車1台を更新、北消防署へ配備
	4月 1日	局事務機構の改革のため、指導課を廃止し予防課へ統合、3課6係とする。
1985年（昭和60年）	3月20日	24m級はしご付消防ポンプ自動車1台を更新し、北消防署へ配備
	12月 1日	第1回幼年少年消防大会を開催

1986年（昭和61年）	4月11日	国際消防救助隊（ＩＲＴ－ＪＦ）の発足に伴い、派遣協力に同意する。 （派遣登録隊員　南消防署特別消防隊10人）
	8月 1日	電源照明用資器材搬送車を寄贈される。
1987年（昭和62年）	4月 1日	南消防署瀬戸出張所に救急車1台を配備し、救急業務を開始
	10月 1日	「広島県内広域消防相互応援協定」を県内の86全市町村と12消防組合の間で締結
1988年（昭和63年）	2月15日	笠岡地区消防組合と「高速自動車国道山陽自動車道消防相互応援協定」を締結
	3月 4日	自治体消防発足40周年を記念し、「セーフティ福山’88・暮らしを守る消防展」及び防災講演会を開催
	3月28日	救助工作車１台を更新、南消防署へ配備
	5月20日	無線中継局を蔵王山へ設置し、運用開始
1989年（平成元年）	4月 1日	警防課通信係を分割し、3課7係とする。
1990年（平成2年）	3月 7日	広島市と「広島県内航空消防応援協定」を締結
	3月15日	化学消防ポンプ自動車1台を増強、西消防署へ配備
	3月30日	45m級はしご付消防自動車1台を更新、南消防署へ配備
		＊＊＊＊＊　組合消防発足　＊＊＊＊＊
	4月 1日	広島県より一部事務組合の設立を許可される。 福山市・内海町・沼隈町の1市2町で福山地区消防組合を設立、職員337人となる。 笠岡地区消防組合と「消防相互応援協定」を締結 笠岡地区消防組合と「高速自動車国道山陽自動車道消防相互応援協定」を締結 福山海上保安署と福山市は「消防業務協定の締結に関する覚書」を交わす。
	4月 2日	尾道海上保安部と福山市・内海町・沼隈町は「消防業務協定の締結に関する覚書」を交わす。
	10月 1日	内海町・沼隈町が消防本部及び消防署を置かなければならない市町村に指定される。 西消防署沼隈内海出張所（鉄筋コンクリート造2階建）を新設、職員20人で業務開始 （機構　1本部　5署　3出張所　1分遣所）
1991年（平成3年）	3月28日	10m級はしご付消防ポンプ自動車1台を購入、西消防署へ配備
	4月 1日	職員339人となる。
	7月 1日	西消防署今津出張所（鉄筋コンクリート造3階建）を新設、職員20人で業務開始 （機構　1本部　5署　4出張所）
	8月 9日	西消防署へ指揮広報車が寄贈される。
	8月12日	南消防署へ水難救急救助用水上スクーター1台が寄贈される。
	8月23日	尾道市と「尾道市浦崎町の救急業務応援協定」を締結
1992年（平成4年）	3月23日	地図検索装置を通信指令室に導入

1992年（平成4年）	3月24日	救助工作車を増強、西消防署へ配備
	3月31日	消防局へマイクロバス1台が寄贈される。
	4月 1日	局事務機構に総務課企画係・予防課建築係・警防課施設係を新設し、3課10係とする。
		職員340人となる。
	10月 1日	旧芦品地区消防組合・深安消防組合を統合し、1市4町による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・内海町・沼隈町・神辺町・新市町
		職　　員　441人
		（機構　1本部　7署　4出張所）
		局事務機構に通信指令室並びに、同室開発係を新設し、3課1室11係とする。
1993年（平成5年）	1月20日	水上消防署へ救助艇1隻が寄贈される。
	4月 1日	職員444人となる。
	5月26日	西消防署に無線中継局を設置し、運用開始
	10月25日	広島県内市町及び消防本部と「広島県内高速道路消防相互応援協定」を締結
1994年（平成6年）	2月21日	高規格救急車を南消防署へ配備
	4月 1日	局事務機構に警防課調査係を新設し、3課1室12係とする。
	12月 1日	福山地区消防組合管内全市町村及び全医師会と「災害時の医療救護活動に関する協定」を締結
1995年（平成7年）	3月30日	平成6年度モデル広域消防の指定を受ける。
	3月31日	高規格救急車が寄贈され、東消防署へ配備
	4月 1日	油木町・神石町・豊松村・三和町・上下町が加入し、1市8町1村による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・内海町・沼隈町・神辺町・新市町・油木町
		神石町・豊松村・三和町・上下町
		局事務機構の警防課調査係を調査第1係・調査第2係に改め、3課1室13係とする。
		職員486人となる。
	10月 1日	芦品消防署小塚出張所（鉄筋コンクリート造2階建）を新設、職員21人で業務開始
		深安消防署安田出張所（鉄筋コンクリート造2階建）を新設、職員21人で業務開始
		（機構　1本部　7署　6出張所）
		井原地区消防組合と「消防相互応援協定」を締結
		高梁市と「消防相互応援協定」を締結
1996年（平成8年）	1月23日	消防局庁舎（鉄骨鉄筋コンクリート造７階建）を新築
	3月19日	高規格救急車を西消防署へ配備
	3月25日	消防通信指令管制システム（Ⅲ型）を導入、運用開始
		無線中継局を蛇円山に設置し、運用開始

1996年（平成8年）	3月25日	無線中継局を星居山に設置し、運用開始
		無線前進基地局を内浦山に設置し、運用開始
	4月 1日	局事務機構の通信指令室を指令課に、開発係を情報管理係に、通信第1係・通信第2係を指令第1係・指令第2係に改め、4課13係とする。
		職員487人となる。
	7月11日	広島県と「広島県防災ヘリコプター応援協定」を締結
	9月28日	消防音楽隊設置30周年記念演奏会を開催
	10月 1日	福山地区消防組合消防職員委員会発足
1997年（平成9年）	4月 1日	局事務機構に警防課救急救助係を新設し、同課調査第1係・調査第2係を調査係に改め、4課13係とする。
1998年（平成10年）	2月25日	自治体消防発足50周年を記念し、式典及び記念演奏会を開催
	12月11日	尾道地区消防組合と「松永道路に関する覚書」を交わす。
1999年（平成11年）	3月 1日	30m級はしご付消防ポンプ自動車1台を更新し、東消防署へ配備
	3月 3日	高規格救急車を芦品消防署へ配備
	4月 1日	旧府中市消防本部を統合し、2市8町1村による新福山地区消防組合が発足 構成団体　福山市・府中市・内海町・沼隈町・神辺町・新市町 油木町・神石町・豊松村・三和町・上下町
		局事務機構に総務課職員係・管理課経理係・管理課管理係を新設し、警防課施設係を装備係に改め、総務課経理係・指令課情報管理係を廃止し、5課14係とする。
		芦品消防署小塚出張所を府中消防署小塚出張所に改める。
		職員数543人となる。
	10月 1日	北消防署駅家分署（鉄筋コンクリート造2階建）を新設
		職員23人で業務開始
		（機構　1本部　8署　1分署　6出張所）
		高規格救急車を芦品消防署から北消防署駅家分署に配置替
	12月 9日	自治体消防発足50周年・組合消防発足10周年を記念して「福山消防のあゆみ」を発刊する。
2000年（平成12年）	3月 1日	救助工作車Ⅲ型・高度救助資機材を北消防署駅家分署へ配備
	4月 1日	職員546人となる。
2001年（平成13年）	1月18日	消防局へ救急普及啓発広報車が寄贈される。
	4月 1日	職員547人となる。
2002年（平成14年）	2月 5日	高規格救急車を北消防署へ配備
	4月 1日	職員548人となる。
		消防局組織の改正により、各課にスタッフ制を導入する。（指令課を除く。）
		深安消防署の体制を3係から2係に改正する。
2003年（平成15年）	2月 3日	福山市・沼隈郡内海町・芦品郡新市町の合併により2市6町1村による新福山地区消防組合が発足 構成団体　福山市・府中市・沼隈町・神辺町・油木町 神石町・豊松村・三和町・上下町

2003年（平成15年）	2月28日	高規格救急車を深安消防署へ配備
	4月 1日	職員数549人となる。
		水上消防署配備の消防艇「雪風」を消防艇「ふくやま」に更新し業務開始
		南消防署（鉄筋コンクリート造4階建）を新築
2004年（平成16年）	3月16日	東消防署へ消防ポンプ自動車1台が寄贈される。
	4月 1日	職員数550人となる。
		府中市・甲奴郡上下町の合併により2市5町1村による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・府中市・沼隈町・神辺町
		油木町・神石町・豊松村・三和町
		府中消防署（鉄骨鉄筋コンクリート造3階建）を新築
	10月 8日	南消防署瀬戸出張所へ高規格救急車1台が寄贈される。
	11月 5日	神石郡油木町・神石町・豊松村・三和町の合併により神石郡神石高原町が新設加入し、2市3町による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・府中市・沼隈町・神辺町・神石高原町
2005年（平成17年）	2月 1日	福山市・沼隈郡沼隈町の合併により2市2町による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・府中市・神辺町・神石高原町
	3月25日	高規格救急車を芦品消防署へ配備
	4月 1日	職員数551人となる。
		水上消防署へ救急車を配備
	11月25日	高規格救急車を深安消防署安田出張所及び府中消防署小塚出張所へ配備
2006年（平成18年）	3月 1日	福山市・深安郡神辺町の合併により2市1町による新福山地区消防組合が発足
		構成団体　福山市・府中市・神石高原町
	3月17日	芦品消防署へ指揮車1台が寄贈される。
	4月 1日	職員数550人となる。
	12月18日	救助工作車Ⅲ型1台を南消防署へ配備
2007年（平成19年）	4月 9日	高度救助隊（スーパーレスキュー福山）の発足
	12月14日	井原鉄道株式会社と「鉄道災害時の安全対策に関する覚書」を交わす。
2008年（平成20年）	4月 1日	職員数552人となる。
	5月30日	尾道市と「尾道市浦崎町の救急業務応援協定」を締結
2009年（平成21年）	1月26日	高規格救急車を水上消防署へ配備
	2月23日	西消防署沼隈内海出張所へ高規格救急車1台が寄贈される。
	3月30日	消防通信指令管制システム（Ⅲ型）を更新、運用開始
		指揮隊運用開始
	4月 1日	職員数547人となる。
	7月10日	尾道市と「尾道市百島町の救急業務応援協定」を締結
	12月28日	福山地区消防組合発足20周年を記念して、記念誌を発刊
2010年（平成22年）	2月15日	高規格救急車を西消防署今津出張所へ配備

2010年（平成22年）	3月16日	「広島県内広域消防相互応援協定」を県内23全市町2消防組合の間で締結
	4月 1日	職員数550人となる。
	9月 1日	芦品消防署（鉄筋コンクリート造4階建）を新築
	12月24日	総務省消防庁から支援車Ⅰ型１台が無償貸与され消防局に配備
2011年（平成23年）	1月31日	南消防署へ現場指揮広報車（天然ガス自動車）1台が寄贈される。
	3月 2日	30m級はしご付消防ポンプ自動車１台を更新し、北消防署駅家分署へ配備
	4月 1日	職員数551人となる。
	6月10日	南消防署鞆出張所へ高規格救急車1台が寄贈される。
	11月30日	化学消防ポンプ自動車1台を更新し、北消防署へ配備
2012年（平成24年）	4月 1日	職員数552人となる。
		消防局組織の改正により、救急救助課を新設する。
2013年（平成25年）	3月 1日	救助工作車Ⅱ型1台を更新し、深安消防署へ配備
	3月21日	総務省消防庁から無線中継車1台が無償貸与され消防局へ配備
	11月11日	北消防署（鉄筋コンクリート造4階建）を新築
	11月20日	高規格救急車1台を更新し、深安消防署へ配備
2014年（平成26年）	3月14日	消防救急デジタル無線設備（共通波・統制波）を整備
	3月24日	現場指揮広報車1台を更新し、深安消防署へ配備
	4月 1日	職員数540人となる。
	9月18日	40m級はしご付消防ポンプ自動車1台を更新し、南消防署へ配備
	10月10日	南消防署鞆出張所（鉄筋コンクリート造5階建）を新築
	10月22日	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、東消防署へ配備
	10月24日	高規格救急車1台を更新し、南消防署瀬戸出張所へ配備
	12月 8日	現場指揮広報車1台を更新し、西消防署へ配備
2015年（平成27年）	4月 1日	職員数549人となる。
	10月13日	高規格救急車3台を更新し、東消防署と芦品消防署と深安消防署安田出張所へ配備
	10月27日	消防ポンプ自動車1台を更新し、府中消防署小塚出張所へ配備
2016年（平成28年）	1月27日	13mブーム付多目的消防ポンプ自動車を西消防署へ配備
	2月 4日	消防救急デジタル無線（活動波）を整備
	4月 1日	職員数551人となる。
		消防救急デジタル無線、運用開始
	9月13日	高規格救急車2台を更新し、西消防署と府中消防署小塚出張所へ配備
	10月26日	消防ポンプ自動車2台を更新し、南消防署と深安消防署安田出張所へ配備
	10月28日	現場指揮広報車1台を更新し、北消防署へ配備
	12月13日	15m級はしご付消防ポンプ自動車を府中消防署へ配備
		化学消防ポンプ自動車1台を更新し、東消防署へ配備
	12月16日	消防ポンプ自動車（ＣＡＦＳ付）2台を更新し、北消防署駅家分署と西消防署今津出張所へ配備
2017年（平成29年）	4月 1日	職員数552人となる。

2017年（平成29年）	6月 1日	「広島県内広域消防相互応援協定」を広島県及び県内23全市町2消防組合の間で締結
	9月 1日	広島市と「広島県内航空消防応援協定」を締結
	11月 9日	笠岡地区消防組合と「福山地区消防組合・笠岡地区消防組合消防相互応援協定」を締結
		井原地区消防組合と「福山地区消防組合・井原地区消防組合消防相互応援協定」を締結
		高梁市と「福山地区消防組合・高梁市消防相互応援協定」を締結
	12月18日	高規格救急車1台を更新し、水上消防署へ配備
2018年（平成30年）	3月27日	広島県東部生コンクリート協同組合と「大規模火災時における消火用水の供給支援に関する協定」を締結
	3月28日	上下地区生コンクリート協同組合と「大規模火災時における消火用水の供給支援に関する協定」を締結
	8月31日	西消防署沼隈内海出張所へ高規格救急車1台が寄贈される。
	11月 1日	広島県検疫所福山出張所と「新型インフルエンザ等感染症の疑い患者の搬送に関する覚書」を交わす。
	11月19日	西消防署（鉄筋コンクリート造4階建）を新築
	11月30日	高規格救急車1台を更新し、北消防署へ配備
	12月 1日	広島県（感染症・疾病管理センター）及び福山市（福山市保健所）と「感染症患者の移送に関する協定」を締結
	12月 3日	福山市民病院と「福山市民病院のドクターカー運用に関する協定」を締結
2019年（平成31年）	2月27日	府中消防署へ高規格救急車1台が寄贈される。
	4月 1日	職員数551人となる。
2019年（令和元年）	10月15日	高規格救急車2台を更新し、南消防署と西消防署今津出張所へ配備
	11月14日	30ｍ級はしご付消防ポンプ自動車を更新し、東消防署へ配備
	11月25日	救助工作車Ⅱ型1台を更新し、府中消防署へ配備
2020年（令和2年）	2月21日	西消防署訓練塔（鉄筋コンクリート造5階建）を増築
	4月 1日	職員数552人となる。
		消防局組織の改正により、総務部総務課に管理課を統合し、警防部予防課を総務部予防課に、警防部警防課の調査担当を指揮・調査担当に改める。（消防局　総務部2課　警防部3課）
	9月16日	消防ポンプ自動車1台を更新し、東消防署へ配備
		消防ポンプ自動車（ＣＡＦＳ付）1台を更新し、南消防署瀬戸出張所へ配備
	10月 5日	現場指揮広報車1台を更新し、消防局へ配備
	10月15日	高規格救急車１台を更新し、北消防署駅家分署へ配備
	10月19日	救助工作車Ⅱ型１台を更新し、西消防署へ配備
2021年（令和3年）	3月24日	深安消防署へ高規格救急車１台が寄贈される。
	8月30日	学校法人穴吹学園と「連携・協力に関する協定」を締結
	9月 2日	消防ポンプ自動車2台を更新し、西消防署と芦品消防署へ配備

2022年（令和4年）	3月 7日	深安消防署（鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建）を新築
	4月 1日	職員数551人となる。
	5月17日	水上消防署へ救助艇「プラズマⅡ」が寄贈される。
	12月 6日	消防ポンプ自動車2台を更新し、北消防署と深安消防署へ配備
2023年（令和5年）	1月30日	消防ポンプ自動車1台を更新し、南消防署鞆出張所へ配備
	2月 3日	現場指揮広報車1台を更新し、南消防署へ配備
	2月13日	水槽付消防ポンプ自動車1台を更新し、芦品消防署へ配備
	3月28日	高規格救急車1台を更新し、東消防署へ配備
	3月30日	府中消防署へ高規格救急車1台が寄贈される。
	4月 1日	職員数552人となる。
	6月20日	救助工作車Ⅲ型を更新し、南消防署へ配備。
	11月 6日	現場指揮広報車1台を更新し、消防局予防課へ配備
	11月16日	高規格救急車1台を更新し、南消防署瀬戸出張所へ配備
2024年（令和6年）	1月10日	消防ポンプ自動車1台を更新し、府中消防署へ配備
	3月14日	高規格救急車1台を更新し、南消防署鞆出張所へ配備
	4月 1日	職員数560人となる。
		消防局組織改正により、総務部予防課の予防・査察担当を予防・査察・調査担当に、警防部警防課の指揮・調査担当を指揮・救助担当に、救急救助課を救急課に改める。
		南消防署に、救急係を新設し5係とする。
	7月12日	消防局へマイクロバス1台が寄贈される。
	9月12日	鞆の浦漁業協同組合と「災害時における人員、消防資機材の搬送に関する覚書」を交わす。
	12月19日	尾道市消防局及び三原市消防本部と「消防連携・協力実施計画」を策定
2025年（令和7年）	4月 1日	職員数が552人となる。
	11月27日	高規格救急車3台を更新し、北消防署と西消防署と深安消防署安田出張所へ配備
2026年（令和8年）	2月 5日	資機材搬送車1台を更新し、南消防署へ配備
	4月 1日	職員数が562人となる。

４．旧芦品地区消防組合の沿革

1969 年(昭和 44 年)	消防組合設立
1970 年(昭和 45 年)	消防組合　1 消防本部　1 消防署開設
	消防職員 28 人
	〔主要装備〕水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 1 台、救急車 1 台、小型動力ポンプ付積載自動車 1 台、指揮車 1 台、無線基地局 1 基、移動局 4 基、携帯局 4 基
1971 年(昭和 46 年)	職員 30 人となる。
	消防ポンプ自動車 1 台を寄贈される。
	車庫（23 ㎡）を新設
1972 年(昭和 47 年)	職員 34 人となる。
1973 年(昭和 48 年)	無線ナロー化に伴い周波数変更工事実施
1974 年(昭和 49 年)	芦田町福山市へ合併
	職員 37 人となる。
1975 年(昭和 50 年)	駅家町福山市へ合併
	駅家町の赤バイ移管受
1976 年(昭和 51 年)	職員 38 人となる。
	救急車を寄贈される。
1977 年(昭和 52 年)	職員 39 人となる。
1978 年(昭和 53 年)	職員 40 人となる。
1979 年(昭和 54 年)	職員 44 人となる。
1980 年(昭和 55 年)	職員 46 人となる。
1981 年(昭和 56 年)	職員 47 人となる。
	救急指令装置設置
1983 年(昭和 58 年)	庁舎増築（480 ㎡）
1984 年(昭和 59 年)	職員 48 人となる。
1986 年(昭和 61 年)	救急車 1 台を寄贈される。
1989 年(平成元年)	職員 47 人となる。
1992 年(平成 4 年)	職員 48 人となる。
9月30日	芦品地区消防組合を解散
10月 1日	福山地区消防組合芦品消防署で新発足する。

5. 旧深安消防組合の沿革

1971 年(昭和 46 年)	消防組合設立
1972 年(昭和 47 年)	消防組合　1 消防本部　1 消防署開設 職員 26 人 〔主要装備〕水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ自動車 1 台、小型動力ポンプ付積載自動車 1 台、指揮広報自動車 1 台 救急車 1 台
1974 年(昭和 49 年)	職員 31 人となる。 消防ポンプ自動車を寄贈される。
1975 年(昭和 50 年)	深安郡加茂町が福山市と市町村の合併に関する特例法に基づき合併するため、深安消防組合を解散 深安郡神辺町、福山市で構成する深安消防組合設立 職員 35 人となる。
1976 年(昭和 51 年)	職員 37 人となる。
1977 年(昭和 52 年)	消防用ホース乾燥塔新設 自家用給油取扱所新設（ガソリン用） 職員 40 人となる。
1978 年(昭和 53 年)	職員 44 人となる。 消防防災行政無線局開局
1979 年(昭和 54 年)	消防庁舎敷地舗装、洗車台設置 職員 48 人となる。
1980 年(昭和 55 年)	自家用給油取扱所設置（軽油用） 救急車を寄贈される。 職員 53 人となる。
1981 年(昭和 56 年)	消防庁舎増築 （鉄筋コンクリート造 2 階建、延面積 392.3 ㎡ 1 棟、訓練棟併設） 広報車を寄贈される。
1984 年(昭和 59 年)	救急車を寄贈される。
1985 年(昭和 60 年)	救助用訓練施設整備 消防本部に総務課と消防課を設置し、1 本部 2 課（5 係）、1 署（4 係）とした。 消防ポンプ自動車を寄贈される。
1986 年(昭和 61 年)	消防署に警防第 3 係を設置し、1 本部 2 課（5 係）、1 署（5 係）とした。(3 部交替制導入) 指揮広報車を寄贈される。

1987 年(昭和 62 年)		救急車を寄贈される。
1988 年(昭和 63 年)		衛星通信を利用した 119 番電話設置
1989 年(平成元年)		救助工作車 1 台を購入
		緊急車出動標識を設置
1992 年(平成 4 年)		職員 53 人となる。
	9月30日	深安消防組合を解散
	10月 1日	福山地区消防組合深安消防署で新発足する。

6. 旧府中市消防本部の沿革

1957 年(昭和 32 年)	消防本部設立
	消防長（市長事務取扱)、消防司令（総務課長)、消防司令補 1 人専任、その他職員 3 人（総務課職員兼務）
	〔主要装備〕消防自動車 3 台、三輪ポンプ自動車 2 台、小型動力ポンプ 7 台
1959 年(昭和 34 年)	消防署設立
	消防長（市長事務取扱)、消防署長（総務課長兼務)、消防司令補 2 人、消防士長 2 人、消防士 10 人で発足
1961 年(昭和 36 年)	消防行政強化のため専任消防署長を任命
1962 年(昭和 37 年)	消防ポンプ自動車 1 台を寄贈される。
1963 年(昭和 38 年)	指揮広報車 1 台を寄贈される。
	消防ポンプ自動車 1 台購入
	消防無線設置
1964 年(昭和 39 年)	救急業務開始
	消防本部・署庁舎増築工事（148.5 ㎡）
1966 年(昭和 41 年)	救急自動車 1 台を寄贈される。
	無線電話機・拡声装置一式の寄贈を受け救急車に搭載
	消防無線電話機移動局を増設し通信施設の強化
1967 年(昭和 42 年)	職員 17 人となる。
1968 年(昭和 43 年)	救急業務実施に関する政令が公布され、府中市が政令指定
	職員 18 人となる。
	消防ポンプ自動車 1 台購入
1970 年(昭和 45 年)	職員 19 人となる。
1971 年(昭和 46 年)	職員 24 人となる。
	消防指揮車 1 台を寄贈される。
	水槽付消防ポンプ自動車を寄贈される。
1972 年(昭和 47 年)	携帯用無線電話機 1 基購入
	消防ポンプ自動車 1 台購入
1973 年(昭和 48 年)	職員 27 人となる。
	救命索発射銃を人命救助用として購入
	救急自動車の予備車を購入
1974 年(昭和 49 年)	職員 30 人となる。
	府中市役所庁舎完成。消防庁舎（府中市立第一中学校校舎改築）改造により府中市元町 1 番地から府川町 315 番地に移転

1974 年(昭和 49 年)	消防専用無線機を購入し、通信網を強化
1975 年(昭和 50 年)	芦品郡協和村と合併
	救急自動車を引き継ぎ署へ配備
	水槽付消防ポンプ車を購入
	携帯用無線電話機 1 基を購入
1976 年（昭和 51 年）	携帯用無線電話機 1 基を購入
	緊急放送設備の設置及び放送契約書を府中市放送農業協同組合連合会と締結し、緊急放送が可能な体制とする。
1977 年（昭和 52 年）	中須町へ水防倉庫を新設（軽量鉄骨造 30.69 ㎡）
	府中水防倉庫及び国府水防倉庫を廃止
	人命救助用呼吸器 2 基を購入
	携帯用無線電話機 1 基を購入
1978 年（昭和 53 年）	職員定数 30 人とする。
	消防庁舎の一部を増改築（36 ㎡）
	超短波移動用無線電話機を指揮車に搭載
1979 年（昭和 54 年）	指令車を寄贈される。
1981 年（昭和 56 年）	エンジンカッター、発電機及び投光器を購入
	空気呼吸器 2 基、筒先無線機 2 基及び携帯無線機 1 基購入
	消防庁舎の一部増築（36.26 ㎡）
1982 年（昭和 57 年）	自記風向及び風速計器を購入
	消防専用無線中継局を府中市諸毛町に設置
	携帯用無線機 1 基を寄贈される。
	背負式消火水のう 20 個（18 リットル）を購入
1983 年（昭和 58 年）	救急自動車 2 台の寄贈を受け、移動用消防無線電話を搭載
	指揮車を寄贈される。
1984 年（昭和 59 年）	消防庁舎増築（218.735 ㎡）
	救急自動車を購入
1985 年（昭和 60 年）	消防庁舎通信室改造（282.75 ㎡）
	消防救急指令装置を通信室に置き、通信施設の整備を図る。
	防火広報車を寄贈される。
1986 年（昭和 61 年）	軽貨物自動車及び消防ポンプ自動車を購入
	高速ファクシミリを通信室へ配置
1987 年（昭和 62 年）	救急用人形を寄贈される。
	消防団緊急伝達システム 5 基を設置
	百葉箱及び自記温湿計を設置
	エンジンカッター、救助用重量物排除器具を購入

1987 年（昭和 62 年）		消防ポンプ自動車を寄贈される。
1988 年（昭和 63 年）		消防ポンプ自動車へ消防無線電話機搭載
		救助用ボートを購入
1990 年（平成 2 年）		救急自動車を購入
		消防無線電話機陸上移動局 3 基購入
		小型貨物車を寄贈される。
		火災専用電話 40 局の 119 番を新設
1991 年（平成 3 年）		水槽付消防ポンプ自動車を購入
		山林火災用軽可搬ポンプ 2 台を購入
1992 年（平成 4 年）		指揮車を購入
1993 年（平成 5 年）		職員定数を 46 人とする。
		職員 31 人となる。
		救助用マットを購入
1994 年（平成 6 年）		職員 34 人となる。
		救急車を寄贈される。
1995 年（平成 7 年）		職員 36 人となる。
		患者監視装置を購入
1996 年（平成 8 年）		職員 39 人となる。
		自動心肺蘇生器を購入
1997 年（平成 9 年）		職員 43 人となる。
		救助工作車及び電磁式膜厚計を購入
		府中市防災行政無線遠隔制御装置を消防署へ設置
1998 年（平成 10 年）		職員 46 人となる。
		高規格救急自動車（高度救命用資機材）1 台及び軽四トラックを購入
		通信管制システム完成
1999年（平成11年）	3月31日	府中市消防本部を解散
	4月 1日	福山地区消防組合府中消防署で新発足する。